
DEATH NOTE 破救

J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DEATH NOTE 破救

【コード】

N1184T

【作者名】

J

【あらすじ】

ニアとの勝負に負けて死んだ夜神月。

しかしそれは夢だった。

そんな都合のいい話があるわけない！

しかし神のいたずらか？月は生きている。

まだ夜神月による新世界の創造は続く。。

悪夢（前書き）

人間界の神「KIRA」は生きている。

そんな願いを込めて。

悪夢

リユーク『サヨナラだ 夜神月』

月「なんでこんなことに！いやだ！逝きたくない！いやだ

」

ガバツ！！

松田「大丈夫かい？月くん？」

月「……………？」

松田「だいぶ うなされている ようだったけど」

月「……………《夢？……にしては、リアルだったな。》……………いや、大丈夫です。松田さん。」

松田「明日はとうとうニアと会う日。やっぱり月君でも緊張するんだ。(笑)」

月「いや、そういうわけでは…」

おかしい。松田の話からして明日がニアと会う日、つまり今日は…1月27日？そんな馬鹿な！僕はたしかに、YB倉庫（イエロー倉庫）に行った。そして僕は……………あの屈辱な出来事か思い出される。なぜだ？どうして？リユークがやったのか？でもそんなことリユークがするわけ……………

…くん！ ……とくん！ 月くん！

月「っはい？」

松田「どうしたんだい怖い顔して。」

月「すみません。なんか変な夢を見てしまつて。」

松田「ん？夢？どんな夢だい？」

月「いや。別に大したことじゃないので…。それより明日に備えてゆつくり休んでは？僕が起きているので松田さんは寝ていいですよ。」

松田「ああ、ありがとう！昨日もろくに寝れなかったし、じゃあ月くんお願い！」

クが！
…夢？で終わらせられるはずがない。やはりリユークが！

リユーク「おい。ライト！」

月「うわっ！」

思わず声が出てしまった。…大丈夫誰も起きていない。

リユーク「俺にびっくりするなんて、相当だな。どうした？明日ニアに負ける夢でも見たのか？」

月「……」

リユーク「どうやらそうらしいな。お前らしくないじゃないか。自

信はあるんだろう?」

月「《こんな話をしてくるなんて…リユークが原因じゃないな。…じゃあなぜ?》…ああ。僕の作戦は完璧だ。」

リユーク「なら、大丈夫じゃいか。くれえぐれもビビッて会つのをやめるなんて言っなよ!」

月「大丈夫だよ、リユーク。ニアは必ず消さないといけない…」

そう。必ず消さないと…。念のため対応策を考えておくか…夢のようにならないために…。いや、別に気にすることはないか。馬鹿げている…。しかし……死神が存在するくらいだ。今まで正夢はただの偶然だと思っていたが本当にあるのかもしれない。

矛盾（前書き）

矛盾

あの夢を思い出してみた

相沢達とY B倉庫に入った。中央に模木や高田の護衛だったハル＝リドナーも含め5人居る。お面？ああ、Lの顔のお面だろう。お面で顔を隠し、Lの顔を知っているということはいつが…ニア。

松田がいろいろとニアに質問した。それから、いろいろなやりとりをして…魅上も加わる。魅上はジェバンニとかいう奴にすり替えられたデスノートに僕以外の名を書き、みんなの前に姿を出した…ん？すり替えられた？あっそうか、ニアが言っていた。魅上は高田を殺すために本物のノートを出したらしい。そこで、すり替えたと…。

そして気付かなかった魅上はY B倉庫にやってきた、偽物のノートを持ち…ん？ちがう！そんなことはありえない。魅上には注意に注意を重ねて、Y B倉庫に来る前に自分の持っているノートを試してから来いと指示したはずだ。じゃあ何故？魅上が忘れるはずがない。今まで完璧だった男だ。今回に限ってそんなことはないだろう…。試すことができなかった。試そうとしなかった。それか、やはり試すことを忘れていた…。デスノート…魅上のは偽物…本物はニア…。そうか！ニアは本物のデスノートを持っている、使うことができる。ということ、これしかない！

ニアが魅上を操っていたんだ。【自分の持っているデスノートを何も疑うこともなくY B倉庫に…】とでもノートに書いたのだろう。きつとそうだ。たねがわかれば対応できる！だがどうすれば？もう高田は殺した。今はもうニアの手にデスノートが渡っている…。仕方がない、魅上を殺すか…。

いや、だめだ！デスノートの効力は初めに書いたのが優先され、後に書いたのは無効になってしまう。ニアはもう書いてしまっているだろう…魅上だけでなくもしかしたら僕の名前も…。変なことは考えないようにしよう。仮にもニアはエルのかたきとして僕を追っている。エルのやり方を継いでいるのなら、そんなやり方はしないはずだ。今はそう願うしかない。

どうすれば…。1月28日なんてもう関係ない。今すぐにもニアを始末しなければ。でもそんなことできるわけ…デスノートは持っていないが、切れ端なら時計に仕込んである。でも名前も顔も…！名前？顔？そうか！

月「くつくく、くくくく（笑）」《勝てる、勝てるぞ。なんでこんな重大なことを考えなかった？ニアの名前も顔もわかるじゃないか！…名前はN a t e R i v e rだったはず。それに顔だって似顔絵の絵、そっくりだ！僕はもう夢でニアとは一度会っている。…捜査本部の皆が寝ている今がチャンス……》

ピピッ 電子音と同時にパソコンの画面にNの文字が映し出された。

N「捜査本部の皆さん、重大なお話があります。皆さん起きていますか？すみませんが皆さんをここに呼んで下さい。」

月がみんなを起こした。

月「はい、みんなここに居ます。」

N「大変残念なことです。明日の予定は無しということをお願いしたいのですが」

月「はい？なぜ、そんなことを言い出すのですか？」

N「こちらにも事情というものがあります。皆さんには申し訳ないですが、またいずれお会いするということまで……」

月「それは困ります。しっかりとした理由がなければ納得できません。」

N「……しかたがないですね……し、あなた以外にキラに近い人物を見つけたということです。それでは……」

大きなNと映し出された画面が黒くなった……松田たちが騒ぎ出す。

松田「なにを考えているんだ、ニアは！」

伊出「新しいキラを見つけたと言っていたが、どういことだ？」

相沢《どういことだニア。月くんは確実に高田と筆談をしていた、それはニアも知っているはず。では、なぜだ？》

月「ニアは何をしたいのかわかりませんが、少し様子を見てみましょう。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1184t/>

DEATH NOTE 破救

2011年5月8日20時55分発行